

＜定例研究会報告要旨＞

第1555回（10月6日）

農協合併のシミュレーション分析

（高知大学）飯 国 芳 明

1. 協同組合に関するミクロ経済学的研究の系譜の検討
2. 全体合理性に基づく農協合併のシミュレーション分析
3. 個別合理性に基づく農協合併のシミュレーション分析

協同組合に関するミクロ経済学的研究の系譜の検討を行なった後、全体合理性及び個別合理性それぞれに基づく農協合併のシミュレーション分析を、山形県庄内地域を事例にして行なった。

全体合理性に基づくシミュレーションは、現在の規模と費用の関係を関数化した後、これを用いてあらゆる合併の組合せのもとで与えられた地域の総費用を推計し、この中で総費用を最小化する組合せを最適合併とするものである。分析結果は、庄内地域の農協を5農協まで減少させるのが最適な合併の組合せであるというものであった。合併農協の区域はほぼ市あるいは郡域と一致しており、結果的には広域合併構想となった。

個別合理性に基づくシミュレーションは、個別の各農協が経済合理的に行動したと仮定し、ゲーム論的手法を用いて最適な合併状態を求めるものである。分析の結果、均衡時の期待費用水準と最適合併時の費用水準格差は全て5%以内に抑えられており、農協経営の効率化は予想以上に進むことが判明した。しかし、期待費用はいずれの農協においても最適合併時の費用以上の水準になっており、合併をめぐる囚人のジレンマ状況が発現することも明らかになった。こうした競争によって

解決されない部分については、協同の理念が有効に機能すると考えられる。

（文責・茂野 隆一）